

平成29年11月14日

お知らせ

資料提供先：岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ
合同庁舎記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

道の駅「鯉が窪」を拠点とした自動運転サービス 第1回 地域実験協議会を開催します！

ビジネスモデルの検討を行うための実験箇所「公募型」として選定された道の駅「鯉が窪」を拠点とした自動運転サービス実証実験の実施に向け、第1回地域実験協議会を開催します。

国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、道の駅など地域の拠点を核とする自動運転サービスの導入を目指し、全国13箇所で順次実験を開始しているところです。

今般、主にビジネスモデルの検討を目的に、公募型として選定された岡山県新見市の道の駅「鯉が窪」を拠点とした自動運転サービス実証実験の実施に向けて、ビジネスモデルの検討に資する実験実施計画の検討や実験実施に係る関係機関との調整等を進めるため、「地域実験協議会」を設置し、その第1回協議会を開催します。

1. 設置趣旨

道の駅「鯉が窪」を拠点とした自動運転サービス実証実験を円滑かつ効果的に実施するため、ビジネスモデルの検討に資する実施計画の検討、実験の実施及び実験結果の検証等を行うことを目的として、道の駅「鯉が窪」を拠点とした自動運転サービス地域実験協議会を設置する。

2. 日時

平成29年11月16日（木） 10:30～12:00

3. 場所

きらめき広場・哲西 多目的ホール（岡山県新見市哲西町矢田3604）

4. 議事

- (1) 実証実験の概要及び実験車両の説明
- (2) 実験実施地域 企画提案内容の説明
- (3) 今後の実証実験の進め方 など

※取材（カメラ撮り）につきましては、会議冒頭のあいさつまでとさせていただきますが、会議終了後に会議資料をお配りし、岡山国道事務所担当者等がお問合せに応じますので、ご了承下さい。

※本実験は、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）のプロジェクトの1つとして実施するものです。

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所 TEL(086)214-2220（代表）
副所長(改築) 飯分 優 (いひぶん まさる) (内204)
計画課長 谷口 雄一郎 (たにぐち ゆういちろう) (内261)

国土交通省 中国地方整備局 道路部交通対策課 TEL(082)221-9231（代表）
交通対策課長 後藤 英夫 (ごとう ひでお) (内4511)
建設専門官 景山 浩孝 (かげやま ひろたか) (内4517)

(広報担当窓口)

国土交通省 中国地方整備局 広報広聴対策官 坂屋 政之 (内2117)
企画部 環境調整官 足立 司 (内3114)
TEL(082)221-9231 (代表)

**道の駅「鯉が窪」を拠点とした自動運転サービス
地域実験協議会
委員等名簿(案)**

委員	所属
橋本 成仁	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授
赤松 健司	岡山県 土木部 道路整備課長
和仁 敏行	岡山県 県民生活部 県民生活交通課長
鈴木 正人	岡山県 備中県民局 建設部 地域建設部長(新見地域)
木村 俊之	新見市 副市長
村松 勲	岡山県警察本部 交通部 交通企画課長
村上 隆文	岡山県警察本部 交通部 交通指導課長
杉 信助	岡山県警察本部 交通部 交通規制課長
多田 典正	岡山県警 新見警察署 署長
岡崎 太郎	矢田谷地区 総代
水上 真一	道の駅「鯉が窪」駅長
雄谷 誠祐	ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社 ゴルフカー事業推進部長
後藤 英夫	国土交通省 中国地方整備局 道路部 交通対策課長
池田 裕二	国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所 所長
北川 由佳	国土交通省 中国運輸局 交通政策部 交通企画課長
原野 康寅	国土交通省 中国運輸局 自動車技術安全部 技術課長
岡田 和史	国土交通省 中国運輸局 岡山運輸支局 支局長
喜安 和秀	国土技術政策総合研究所 道路交通研究部 部長

道の駅「鯉が窪」 基本情報

《「道の駅」の概要》

- 設置者：新見市
- 所在地：岡山県新見市哲西町矢田3585-1
- 路線名：一般国道182号
- 道路管理者：岡山県
- 整備手法：一体型
- 管理・運営者：株式会社アクティブ哲西
- 全体面積：14,416㎡

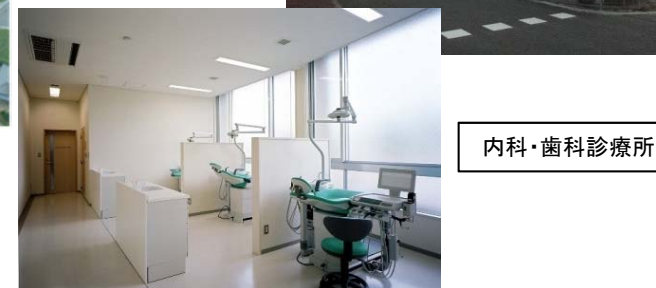
《位置図》



《全景写真》



道の駅に隣接する「きらめき広場・哲西」には、診療所・図書館・認定こども園・行政窓口などの地域振興施設の機能を集約することによりワンストップサービスを実現し、「小さな拠点」を形成



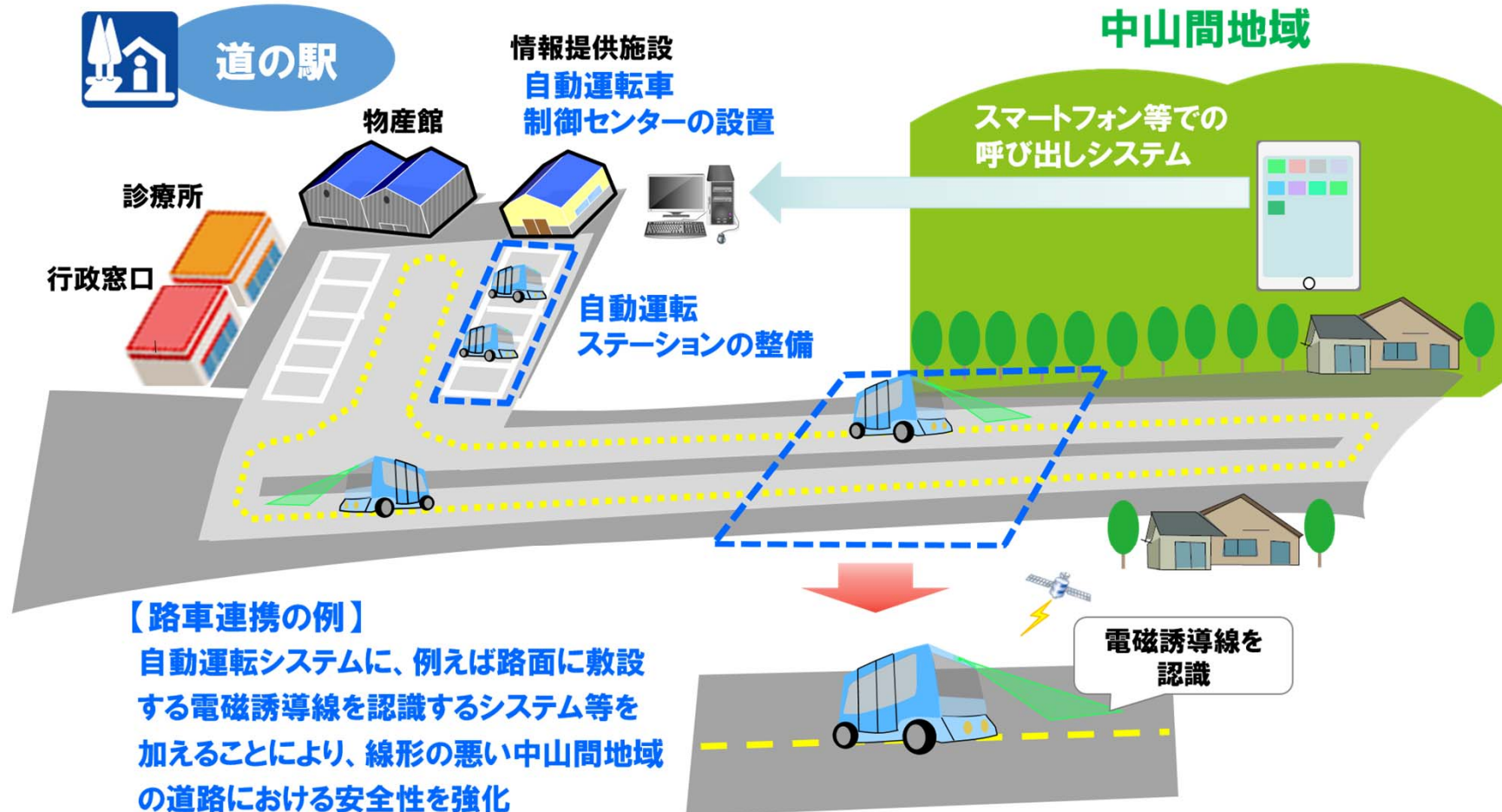
産直市



こめ工房



● 高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。



物流の確保
(宅配便・農産物の集出荷等)

貨客混載

生活の足の確保
(買物・病院、公共サービス等)

地域の活性化
(観光・働く場の創造等)

全国13箇所で順次実験開始(9/2~)